



「人との交流がなよりの魅力です」と、重野さん。

輝いています

ひと

しげのひとし
重野 仁志 さん

世界バーベキュー大会 入賞

本場のバーベキューを広めたい

バーベキューの本場アメリカでは、年間1000回以上もの大会が開催されているのをご存じですか。今年9月、その中でも4大会の一つに数えられる「アメリカンロイヤル」に日本からも1チームが参加。その一員として、ポーク部門で入賞を果たしたのが、日本BBQ協会認定上級インストラクターの資格を持つ重野仁志さん（55歳・塚越6丁目）です。

味や見た目、軟らかさが採点対象の大会で、重野さんは均等に火をいれるのが困難な豚の肩肉を担当。縦20センチ×横25センチ×厚さ10センチ、重さ4結の塊を、巧みなナイフさばきで丁寧に余分な脂肪を取り除き、温度管理をしながら、約8時間もかけて焼き上げます。完成した肉はナイフを入れると崩れるか崩れないかの絶妙な状態となり、審査員6人のうち3人が満点を出すほどの高評価。407チーム中15位に輝く快挙を達成しました。

そんな重野さんが本場のバーベキューに出合ったのは4年前。日本とは違い、火の起こし方から焼き方、そして、その一挙手一投足で見る人を魅了するパフォーマンスまで、全てにこだわる奥深さに心を奪われました。仲間の笑顔が好物の重野さん。料理を楽しんででもらいながら、酒を酌み交わすのは「至福のひとつです」と、目を細めます。

これまで仕事の傍ら普及に取り組むほか、大会に参加するなど経験を積んできました。その一方で塚越の桜まつりや生涯学習フェスティバルにも出店するなど地域にも活動の場を広げています。「一度食べたらやみつきです」と、リピーターもいるほどで、「キッズバーベキュー学校も開きたいですね」と、笑顔で話す重野さん。これからも持ちまへの明るさと世界で通じる腕前を生かして、本場のバーベキューの醍醐味を広めていきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.19 —



『暁斎百鬼画談』より「妖怪入りの唐櫃」明治22年 版本

版本「暁斎百鬼画談」は暁斎が亡くなった後の明治22年8月に発行されました。その内容は、庶民が集まって怪談話をする「百物語」の場面に始まり、それまでの「百鬼夜行図巻」など、さまざまな妖怪絵巻からアイデアを得た妖怪たちの行列が続く絵巻物風に描かれています。

左上図の妖怪入りの唐櫃の場面は、京都の大徳寺真珠庵が所蔵する「百鬼夜行図巻」にも登場しますが、暁斎の妖怪の方がダイナミックに描かれています。



現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 12月23日(土・祝)まで
「暁斎が描く異形のものたち」展
同時開催「英国の子供たちの見た暁斎」展

開館 = 午前10時～午後4時
休館 = 木曜日 毎月26日～末日、年末年始
ところ = 南町 4-36-4
入館料 = 一般600円 中学生～大学生500円
小学生以下300円
(20人以上の団体は要予約)
詳細 = 同館 ☎441・9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

